

資料集

時代	西暦	年号	郷土の主な事項	鹿児島県内の主な事項	日本の主な事項	朝鮮	中国	世界の主な事項
旧石器時代		但 縄 文 文化	檳崎A・B遺跡(郷之原町) 西丸尾遺跡(白水町) 打製石器を使用	加栗山遺跡(鹿児島市) 前畑遺跡(薩摩川内市) 西ノ平遺跡(薩摩川内市) 岩本遺跡(指宿市)	岩宿遺跡 日本列島が大陸から分離(約1万年前)		中国 殷 周 B.C.770 春秋 戦 国 B.C.221 秦 B.C.202 漢 (前漢)	400万年前 人類誕生 四大文明 B.C.566 釈迦誕生 B.C.553 孔子誕生 B.C.272 ローマがイタリア半島を統一 B.C.221 秦の始皇帝中国統一、皇帝の称号 B.C.202 漢の成立 B.C.27 ローマ帝国の成立 B.C. 4 イエス・キリスト誕生 30頃 キリストが処刑される
縄文時代	早期 7500年頃 前期 紀元前 3500年頃 紀元前 500年頃	縄 文 文化	益畑遺跡(串良町)の集落(項目032) 野里小西遺跡(野里町) 前畑遺跡(郷之原町) 町田堀・十三塚遺跡(串良町) 横山3遺跡(横山町)	上野原遺跡(霧島市)の大規模集落 塞ノ神遺跡(伊佐市) 岩崎遺跡(錦江町) 上加世田遺跡(南さつま市) 高橋貝塚(南さつま市) 吉野ヶ里遺跡環濠集落 ・ムラからクニへ	三内丸山遺跡(青森県青森市)の大規模集落 茨畑遺跡(佐賀県唐津市)で水田稲作・青銅器や鉄器が大陸から伝わる			
弥生時代	紀元前 400年頃 紀元前 100年頃	弥 生 文化	古ヶ崎遺跡(串良町)集落遺跡(項目033) 王子遺跡(王子町)の大規模集落(項目033) 西ノ丸遺跡(串良町)環濠集落(項目033) 町田堀遺跡(串良町)	松木遺跡(南さつま市) 中津野遺跡(南さつま市) 堂前遺跡(出水市) 地下式板石積石室始まる	倭の奴国王が後漢に使いを送る 倭国師升が後漢に使いを送る 2世紀後半倭国大乱 倭国の女王卑弥呼が魏に使いを送る 卑弥呼の邪馬台国が狗奴国と戦う			
古墳時代	300 372 391 451 478 552	古 墳 文化	この頃、岡崎古墳群(串良町)が造られ始める(項目035、項目037) この頃、上小原古墳群(串良町)や蔵川地下式横穴墓群(蔵川町)が造られ始める(項目035、項目037) この頃、名主原地下式横穴墓群が造られ始める	この頃、岡崎古墳群(串良町)が造られ始める 唐人古墳群(東串良町)造られ始める 松ノ尾遺跡(枕崎市) 笹貫遺跡(鹿児島市)	前方後円墳が造られる(箸墓古墳等) 百済王世子から七支刀贈られる 朝鮮半島に出兵し、百済・新羅を破り高句麗と交戦(〜404)したが朝鮮半島から撤退 倭の五王が南朝の宋に使いを送る 倭王「安東大將軍倭国王」に任命される 倭王武(雄略天皇)が宋に使いを送る 百済王から仏像と教典を送られる 任那が滅亡 聖徳太子摂政となる 第1回遣隋使派遣 冠位十二階 十七条の憲法 第2回遣隋使派遣 「日出づる処の天子日没する処の天子」の国書 第3回遣隋使の派遣 「東の天皇西の皇帝」の国書天皇号の始まり 法隆寺創建、小野妹子を隋に派遣	漢 の 四 郡 高 句 麗 (北部) 三 韓 (南部) 高 句 麗 ・ 百 濟 ・ 新 羅	316 五 胡 十 六 国 南 北 朝 589 隋 618 唐	313 コンスタンティヌス帝がキリスト教を公認する ゲルマン民族大移動 570頃 マホメットが生まれる 600頃 イギリスでアングロ=サクソンの七王国時代が始まる イスラム教始まる(610頃)
飛鳥時代	593 600 603 604 607 608	飛 鳥 文化	中尾地下式横穴墓群が造られ始める(項目068)	横間古墳(薩摩川内市)	被久(屋久)人、都に至る			
	612 616		推古天皇「馬ナラバ日向ノ駒」詠じ給う					

時代	西暦	年号	郷土の主な事項	鹿児島県内の主な事項	日本の主な事項	朝鮮	中国	世界の主な事項
飛鳥時代	630	大化		指江古墳群(長島町)	第1回遣唐使 大化の改新、日本独自の年号使用 白村江の戦い・唐・新羅連合軍に敗北 ・防人・水城・近江遷都で防衛を固める 壬申の乱 天武天皇の政治が始まる ・日本の国号が定まる	高句麗・百濟・新羅	中国	660 百済が滅びる 668 高句麗滅びる 676 新羅朝鮮半島統一
	645							
	663							
	672							
	682	大宝元 701 大宝2 702 和銅元 708	集人部による。大隅集人と阿多集人朝廷にて相撲を取り、大隅集人勝つ 大隅の直姓を賜い忌寸 肝付瀬波肥人反乱		大宝律令がつくられる 日本で初の流通貨幣・和同開珎(わどうかいしん) 都を平城京(奈良)に移す	新羅	唐	
	685			薩摩国・多岐嶋を置く 空野薬師創建				
	700							
	701							
奈良時代	702	養老4 720 養老7 723 神龜2 725 神龜6 729 天平元 730 天平2 735 天平7 739 天平11 741 天平13 742 天平14 743 天平15 752 天平勝宝4 753 天平勝宝5 759 天平宝字3 764 天平宝字8 766 天平神龜2 769 神龜景雲3 785 延暦4 788 延暦7 794 延暦13 797 延暦16 800 延暦19 804 延暦23 805 延暦24	大隅国司陽原史麻呂殺される(項目036) (永野田町 国司塚) 大伴旅人が征集人大討將軍となり、大隅に入る(項目039)	豊前国から200戸を移民現在の霧島市集人町 八幡信仰伝わる	天平文化 「古事記」「風土記」 東大寺 唐招提寺 阿修羅像 四天王像 「万葉集」 三世一身法(さんぜんいっしんのほう)を施行 土地の開墾の奨励のため、班田制がぐずれる 長屋王の没 基王の死の原因は長屋王が呪いをかけたせい だとして自殺に追い込んだ事件	新羅	唐	
	710		大隅国ができる疫病流行する(項目040) 大隅国風土記完成「カウ」の地名見える(項目038)	新田八幡宮創建(薩摩川内市)				
	713							
	714							
	720							
	723							
	725							
	729							
	730		噴火があり、大隅国23日から28日まで大地震がおこる 大隅・薩摩の百姓いまだ班田せず					
	735		大隅・薩摩二国の集人調物を募る。また法薬を募る 藤原広嗣の乱に集人参加					
平安時代	742	大隅大地震 <						

時代	西暦	年号	郷土の主な事項	鹿児島県内の主な事項	日本の主な事項	朝鮮	中国	世界の主な事項
平安時代	813	弘仁4	大隅・薩摩に蝗(イナゴ)の害と大風災害のため租税を免除 常平倉設置 高須常平倉跡(館庭、災害に備える米倉庫)	大隅吉多、野神の二枚を廃する	菅原道真、遣唐使廃止 古今和歌集ができる	新羅	唐	843 ベルダン条約でフランク王国3分される 870 メルセン条約が結ばれる
	860	貞観2						
	867	貞観9						
	874	貞観16	開聞岳が大噴火する(噴火による噴出物の堆積層は紫コラと呼ばれる) 枚開神社(ひらきぎじんじや)(指宿市開聞十町)正四位に叙位される 開聞岳が大噴火する	伴兼行、鹿児島郡神食に入部する 伴兼行、高山に移り高山本城を築城(説あり) 奄美島人が薩摩国を襲う	907 五代 936 高麗 朝鮮半島統一	936 高麗	960 宗(北宋)	1038 西夏が建国する(～1227)
	882	元慶6						
	885	仁和元						
	894	寛平6	藤原頼光、禰婁を領す。大始良の地名あり	南監視(南西諸島の賊徒)が薩摩国襲来し、虜掠する 大宰大監 平秀基、島津荘を開発する 関白 藤原頼道に寄進	かなもじ 発達 「古今和歌集」 「枕草子」 前九年の役(～1062年) 藤原頼道、平等院鳳凰堂を建立 荘園整理令。 後三年の役(～1087年) 白河上皇、院政を始める 藤原清衡が平泉に中尊寺金色堂を建てる	936 高麗	1127 金 宋(南宋)	1054 キリスト教会が東西に分裂する 1066 ノルマン人がイギリスにノルマン朝を開く
	895	寛平7						
	969	安和2						
	984	承観2	大隅権太孫 建部頼朝 没す霧島神火ある 富山氏、薩摩北原院(西保町)に土着 肝付兼俊、九城院(串良町)、教仁院(大崎町)を領する 北原兼幸、北原城(串良町)に拠る	大隅正八幡宮 炎上し、翌年造営する 源為朝、琉球に至ると伝える 僧俊寛らが鹿児島(薩摩島)に配流される 惟宗忠久(島津忠久)が島津荘下司職に任ぜられる 平重澄が日置荘と伊作荘を近衛家に寄進 鎮西奉行天野遠影、豊泉島を平げる	保元の乱→崇徳上皇vs後白河天皇 後白河天皇勝利 平治の乱→平清盛vs源義朝 平氏の勝利 平清盛、太政大臣となる	高麗		
	985	承観3						
	997	永延元						
	1016	長和4	大隅権太孫 建部頼朝 没す霧島神火ある 富山氏、薩摩北原院(西保町)に土着 肝付兼俊、九城院(串良町)、教仁院(大崎町)を領する 北原兼幸、北原城(串良町)に拠る	大隅正八幡宮 炎上し、翌年造営する 源為朝、琉球に至ると伝える 僧俊寛らが鹿児島(薩摩島)に配流される 惟宗忠久(島津忠久)が島津荘下司職に任ぜられる 平重澄が日置荘と伊作荘を近衛家に寄進 鎮西奉行天野遠影、豊泉島を平げる	壇ノ浦の戦い→平氏滅亡 守護・地頭の設置 奥州合戦により奥州藤原氏滅亡			
	1019	寛仁3						
	1020	寛仁4						
	1024	万寿元	大隅権太孫 建部頼朝 没す霧島神火ある 富山氏、薩摩北原院(西保町)に土着 肝付兼俊、九城院(串良町)、教仁院(大崎町)を領する 北原兼幸、北原城(串良町)に拠る	大隅正八幡宮 炎上し、翌年造営する 源為朝、琉球に至ると伝える 僧俊寛らが鹿児島(薩摩島)に配流される 惟宗忠久(島津忠久)が島津荘下司職に任ぜられる 平重澄が日置荘と伊作荘を近衛家に寄進 鎮西奉行天野遠影、豊泉島を平げる				
	1028	長元元年						
	1051	永承6						
	1053	永承8 天喜元	大隅権太孫 建部頼朝 没す霧島神火ある 富山氏、薩摩北原院(西保町)に土着 肝付兼俊、九城院(串良町)、教仁院(大崎町)を領する 北原兼幸、北原城(串良町)に拠る	大隅正八幡宮 炎上し、翌年造営する 源為朝、琉球に至ると伝える 僧俊寛らが鹿児島(薩摩島)に配流される 惟宗忠久(島津忠久)が島津荘下司職に任ぜられる 平重澄が日置荘と伊作荘を近衛家に寄進 鎮西奉行天野遠影、豊泉島を平げる				
	1069	延久元						
	1083	永保3						
	1086	応徳3	大隅権太孫 建部頼朝 没す霧島神火ある 富山氏、薩摩北原院(西保町)に土着 肝付兼俊、九城院(串良町)、教仁院(大崎町)を領する 北原兼幸、北原城(串良町)に拠る	大隅正八幡宮 炎上し、翌年造営する 源為朝、琉球に至ると伝える 僧俊寛らが鹿児島(薩摩島)に配流される 惟宗忠久(島津忠久)が島津荘下司職に任ぜられる 平重澄が日置荘と伊作荘を近衛家に寄進 鎮西奉行天野遠影、豊泉島を平げる				
	1105	長治2						
	1133	長承2						
	1134	長承3	大隅権太孫 建部頼朝 没す霧島神火ある 富山氏、薩摩北原院(西保町)に土着 肝付兼俊、九城院(串良町)、教仁院(大崎町)を領する 北原兼幸、北原城(串良町)に拠る	大隅正八幡宮 炎上し、翌年造営する 源為朝、琉球に至ると伝える 僧俊寛らが鹿児島(薩摩島)に配流される 惟宗忠久(島津忠久)が島津荘下司職に任ぜられる 平重澄が日置荘と伊作荘を近衛家に寄進 鎮西奉行天野遠影、豊泉島を平げる				
	1156	保元元						
	1159	平治元						
	1167	仁安2	大隅権太孫 建部頼朝 没す霧島神火ある 富山氏、薩摩北原院(西保町)に土着 肝付兼俊、九城院(串良町)、教仁院(大崎町)を領する 北原兼幸、北原城(串良町)に拠る	大隅正八幡宮 炎上し、翌年造営する 源為朝、琉球に至ると伝える 僧俊寛らが鹿児島(薩摩島)に配流される 惟宗忠久(島津忠久)が島津荘下司職に任ぜられる 平重澄が日置荘と伊作荘を近衛家に寄進 鎮西奉行天野遠影、豊泉島を平げる				
	1091	寛治5						
	1112	天永3						
	1164	長寛2	大隅権太孫 建部頼朝 没す霧島神火ある 富山氏、薩摩北原院(西保町)に土着 肝付兼俊、九城院(串良町)、教仁院(大崎町)を領する 北原兼幸、北原城(串良町)に拠る	大隅正八幡宮 炎上し、翌年造営する 源為朝、琉球に至ると伝える 僧俊寛らが鹿児島(薩摩島)に配流される 惟宗忠久(島津忠久)が島津荘下司職に任ぜられる 平重澄が日置荘と伊作荘を近衛家に寄進 鎮西奉行天野遠影、豊泉島を平げる				
	1165	長寛3						
	1177	治承元						
	1185	元暦2	大隅権太孫 建部頼朝 没す霧島神火ある 富山氏、薩摩北原院(西保町)に土着 肝付兼俊、九城院(串良町)、教仁院(大崎町)を領する 北原兼幸、北原城(串良町)に拠る	大隅正八幡宮 炎上し、翌年造営する 源為朝、琉球に至ると伝える 僧俊寛らが鹿児島(薩摩島)に配流される 惟宗忠久(島津忠久)が島津荘下司職に任ぜられる 平重澄が日置荘と伊作荘を近衛家に寄進 鎮西奉行天野遠影、豊泉島を平げる				
	1187	文治元						
	1188	文治3						
	1189	文治4	大隅権太孫 建部頼朝 没す霧島神火ある 富山氏、薩摩北原院(西保町)に土着 肝付兼俊、九城院(串良町)、教仁院(大崎町)を領する 北原兼幸、北原城(串良町)に拠る	大隅正八幡宮 炎上し、翌年造営する 源為朝、琉球に至ると伝える 僧俊寛らが鹿児島(薩摩島)に配流される 惟宗忠久(島津忠久)が島津荘下司職に任ぜられる 平重澄が日置荘と伊作荘を近衛家に寄進 鎮西奉行天野遠影、豊泉島を平げる				
	1189	文治5						
	1190	文治6年 建久元年						

203

時代	西暦	年号	郷土の主な事項	鹿児島県内の主な事項	日本の主な事項	朝鮮	中国	世界の主な事項
南北朝時代	1340	興国元暦応3	鹿屋兼永、高城に戦死	楠井頼仲、大慈寺を創建	南朝征西大將軍徳良親王、薩摩津に着き島津貞久を谷山で破る 足利直義が島津貞久に、島山直顕と協力して宮方の南軍を討つ事を命じる 足利尊氏が島津氏に足利直冬討伐を命じる 大始良城回復。六、七年頃肝付兼重陣中に病死 楠井頼仲、木谷城に拠る。長谷山合戦 鹿屋一ノ谷城陥落。楠井頼仲、高岳城に拠る 島津氏久、大始良城(大始良町)拠る この頃倭寇盛んに行われる(項目04.2) 北原城(串良町)落ちる	高麗	元	1341 イギリス議会が上下両院に分かれる 1351 中国で紅巾の乱
	1342	興国3康永元						
	1348	正平3貞和4						
	1350	正平5観応元						
	1352	正平7文和元						
	1353	正平8文和2						
	1354	正平9文和3						
	1362	正平17康安2貞治元						
	1368	貞治7康安4						
	1371	建徳2天授3						
室町時代	1377	天授3弘和2		北郷直久、今川満範に都城を包囲され戦う 島津氏久が援軍をおくり今川軍を破る	足利義満が3代將軍になる 今川貞世が九州探題となり赴任 南北朝の統一 幕府、九州探題今川貞世召還する 足利義満が京都の北山に金閣寺を建てる→北山文化 明と国交樹立 足利義満が日明貿易を開始(勘合貿易開始) 正長の士一揆 尚巴志が、北山・中山・南山を統一し、琉球王国を建国 6代將軍義教が、明との国交を回復 応仁の乱おこる(1467から1477)	朝鮮王朝	明	1368 元が滅び、明が建国 1369 中央アジアにティムール帝国が興る 1378 ローマ教会が分裂 1392 高麗が滅び、李氏朝鮮が成立
	1382	永徳2元中9						
	1392	明徳3						
	1394	応永元	瀬戸山神社(蔵川町)の神体銘	島津元久が福昌寺を建て、石屋裏築を開山とす				
	1395	応永2						
	1397	応永4	高隈一ノ宮神社創建(高隈町)	鶴田重成、渋谷四家の攻撃を助け鶴田城陥落 幕府、島津元久を日向・大隅の守護に任命				
	1398	応永5	平田重宗、串良地頭(串良、高隈)					
	1401	応永8	肝付兼元、鹿屋忠兼を鹿屋に攻める 佐々木氏、西原より指宿大山村に移る					
	1404	応永11	鹿屋玄兼、細社田貫神社へ鎮奉納 熊野権現の棟札(鹿屋玄兼)					
	1411	応永18	薩摩、大隅の農民疲弊甚だしく一揆	島津忠国の時に、国一揆おこる				
戦国時代	1413	応永20		桜島噴火	室町文化 銅関 水墨画 御伽草子			1453 東ローマ帝国(ビザンツ)帝国がオスマン・トルコに滅ぼされる 1455 イギリスでばら戦争が始まる(〜1485) 1479 スペイン王国が成立 1492 コロンブスがアメリカ大陸到達 1498 バスコ＝ダ＝ガマがインドに到達 1513 スペイン人のバルボアが太平洋を発見する 1517 宗教改革始まる 1519 マゼランが世界周航に出發する 1521 スペイン人のコルテスがアステカを滅ぼしてメキシコを征服する
	1426	応永33		桜島大噴火、向島(燃島)出現 柱庵禪師が鹿児島に招かれる				
	1428	正長元	南の虚空蔵菩薩銘					
	1429	正長2						
	1432	永享4						
	1467	応仁元						
	1471	文明3						
	1476	文明8						
	1478	文明10						
	1498	明応7						
	1510	永正7	この頃、薩・隅・日三州大いに乱れる		島津勝家、貞久に豪賢を譲る			
	1520	永正17	肝付兼興、平山近久を串良鶴亀城を攻める					
	1521	大永元	島津忠朝(休肥)、鹿屋城を攻撃、鹿屋原に大敗する					
	1524	大永4	肝付兼興、串良鶴亀城を攻略する。島津忠吉戦死する					
	1527	大永7	肝付兼縁、阿南と結婚する					

時代	西暦	年号	細島の主な事項	鹿児島県内の主な事項	日本の主な事項	朝鮮	中国	世界の主な事項
戦国時代 室町時代	安土桃山時代	1534 天文3	肝付素経、西侯城を奪回する。打馬春日神社の権礼	明の倭寇船種子島漂着しポルトガル人鉄砲を伝える	織田信長、今川義元を尾張の桶狭間に破る 室町幕府が滅ぶ	朝鮮 明		1533 インカ帝国が滅びる 1534 イエズ会ができる
		1538 天文7	肝付素経、百引、平原、大崎、野卸、安楽、蓬原、恒吉城を攻略する	島津一族有力者が集まり、貴久を三州守護に推戴を決議				
		1541 天文10	大隅半島の諸豪清水城に会す 神山幸久を生別府城(加治木町・小浜)に攻め、素経、貴久に協力する	フランススコスコザエル鹿兒島に来てキリスト教を伝える				
		1542 天文11	素経、貴久に協力する 北郷忠孝鹿屋侵入を破る 素経再び高岳城をとる 川越丹後守重実入道玄忠加世田々城主となる	東市来の鶴丸城内に礼拝堂建立				
		1543 天文12	素経、市成城・安楽城を攻略	宣教師アルメイダ、豊後より阿久根に来る				
		1544 天文13	伊東氏氏肥に侵入。素経、大崎城を回復する	島津義弘、夢刈氏を攻め馬越城を落す				
		1545 天文14	素経、蒲津、島津氏(氏肥)と戦う	島津義弘、本嶺原の戦いで大いに伊東氏を破る				
		1546 天文15	西侯、野里、大崎城をとる 同じく大始良、蓬原城回復する					
		1549 天文18						
		1550 天文19						
安土桃山時代	安土桃山時代	1551 天文20		島津義弘、日向氏肥の伊東義祐を攻める。伊東義祐、豊後の大友に走る	大友宗麟、大村純忠、有馬晴信らが 天正遣欧少年使節を派遣する 本能寺の変 豊臣秀吉、太閤検地を開始する 豊臣秀吉、大阪城を築く 秀吉、四国平定 豊臣秀吉、関白になる 秀吉、九州平定 豊臣秀吉、バテレン追放令を出す 刀狩が行われる 小田原の役 豊臣軍と北条軍戦う →豊臣軍の勝利 豊臣秀吉、全国を統一する 奥州平定 文禄の役(朝鮮出兵) 慶長の役(朝鮮出兵) 豊臣秀吉死去			1551 オランダ人がマラッカを占領
		1561 永禄3		大友義統兵10万で日向の高城を攻めるが義久によって敗北。島津勢さらに追撃し、耳川の戦いでこれを潰滅する				1566 イスパニア人がフィリピンを占領 1568 オランダ独立戦争が始まる
		1566 永禄9		肥前有馬晴信、竜造寺隆信に攻められ島津氏に援助を請う				1579 イギリス人が始めてインドに到達 1581 オランダがスペインから独立
		1567 永禄10		島津家久、有馬氏とともに竜造寺隆信の兵6万余と島原に戦い、隆信を滅ぼす 三州の侯地大口(伊佐市)より始まる				
		1572 元龜3						
		1573 天正元	1月島津、西侯城を攻める 南宮神社創建(南町) 串島地頭島津忠長、始良(吾平)地頭伊地知重秀となる					
		1577 天正5		串島地頭島津忠長、高須を領す				
		1578 天正6						
		1579 天正7						
		1582 天正10						
1583 天正11								
1584 天正12								
1585 天正13								
1587 天正15								
1588 天正16								
1590 天正18								
1592 文禄元								
1594 文禄3								
1595 文禄4								
1597 慶長2								
1598 慶長3								

安土桃山文化

狩野永徳

茶の湯

安土城

大阪城

時代	西暦	年号	郷土の主な事項	鹿児島県内の主な事項	日本の主な事項	朝鮮	中国	世界の主な事項			
江戸時代	1599	慶長4	高隈中津神社 細川藤孝銘、敷根頼幸高隈地頭になる	島津氏琉球に侵攻	関ヶ原の戦い 徳川家康が征夷大将軍となり、江戸幕府を開く。	朝鮮王朝	明	1604 フランスが東インド会社を作る			
	1600	慶長5	島津筑前守藤原久頼市成を領す(土岐氏)百引郷建設さる		大坂冬の陣						
	1603	慶長8			大坂夏の陣 →豊田氏滅亡 禁中並公家諸法度を制定 徳川家光が三代将軍となる。				朝鮮王朝	清	1636 中国の後金が国号を大清国と改める 1644 清が中国を支配する 1688 イギリスで名誉革命がおこる 1689 イギリスで権利の章典が公布される
	1609	慶長14			スペイン船の来航を禁止 武家諸法度が制定される 参勤交代の制						
	1614	慶長19			島原の乱 (島原・天草一揆に備える)						
	1615	慶長20			ポルトガル船の来航禁止 鎖国の完成(～1854年まで)						
	1623	元和9	高牧繁昌のため近戸宮三所権現(瀬戸山神社被川町)壊れと祈願文	初めて宗門手札改の制を定める	徳川吉宗が八代将軍となり、享保の改革が始まる						
	1624	寛永元		島津氏、軍を獅子島に派遣し島原・天草一揆に備える							
	1635	寛永12									
	1637	寛永14									
	1639	寛永16	龍川橋原板碑								
	1645	正保1年	唐屋直轄領となり福屋伊賀地頭となる								
	1664	寛文4	串良用水路完成								
	1665	寛文5	被川橋原板碑								
	1692	元禄5	高須庚申塔、南山薬師堂境内庚申供養碑銘								
	1705	宝永2	島津内蔵、百引地頭となる	前田利右衛門、甘藷を琉球から山川に移植する 9月に霧島山噴火、12月に再噴火 (項目042)							
	1716	享保元	霧島山の2回の噴火で田畑埋没(霧北町)								
	1724	享保8	花岡島津始まる。木谷、白水、古里、野里、六百								
	1733	享保18	白木屋着鉛試掘								
	1737	元文2	牧内鉱山試掘(郷之原銅山)								
1753	宝暦3		木曾川治水工事手伝の幕命を受ける 木曾川治水工事総奉行平田朝貞正輔、自刃	明和の大火 田沼意次、老中になる							
1772	天明9	川東庚申像銘	聖堂及び武芝藩古館創設命令 医学館建設着手	天明の大飢饉(～1788年) 松平定信、老中になる 寛政の改革が始まる	ロシア使節のラクスマンが根室に到着 間宮林蔵、樺太を探検する						
1773	安永2										
1782	天明2										
1787	天明7			秋父孝保、樺山久信ら自刃を命ぜられる(近思結酬れ、文化開港事件、始まる) 島津齊宣が隠居し斉興親封 幕府から美濃、伊勢、尾張の治水工事負担金7万7864両を課せられる 大阪館主ら薩摩藩に一切の貸し出しを拒む イギリス人、宝島に上陸							
1792	寛政4		唐屋名隣誌報告戸数1,145戸・人口6,180人、三州の人口646,925人		異国船打込令が出される						
1808	文化5			藩積500万両に及び、重豪、調所広郷に藩の財政改革を命じる	天保の大飢饉(～1839年)						
1809	文化6			幕府へ謝恩として金10万両を納める。調所広郷、大阪商人に対し藩積250年賦償還法を実施 アメリカ船モリソン号山川沖にあらわれる	大塩平八郎の乱 老中水野忠邦天保の改革を始める(～1843) フランス艦アルクメール号那覇にあらわれ、通信、貿易、布教を求め、宣教師フオカードを留め						
1816	文化13										
1819	文政2										
1824	文政7										
1825	文政8										
1827	文政10										
1833	天保4										
1836	天保7										
1837	天保8		横山村名頭伝太郎篤行者として夢賞								
1841	天保12										
1844	弘化元		市成栗毛の名がつく(市成産名馬)								
1851	嘉永4			斉興隠居し、斉彬が襲封する。製煉所わ股け、反射炸薬型を建てる	ペリー浦賀に来航 ロシア使節フチャーチン、長崎に来航						
1853	嘉永6			琉球大砲船建造に着手							

時代	西暦	年号	郷土の主な事項	鹿児島県内の主な事項	日本の主な事項	朝鮮	中国	世界の主な事項		
江戸時代	1854	安政元		西洋型伊呂波丸竣工、琉球大砲船を改装し、昇平丸とする	幕府、日米和親条約締結・日英和親条約締結・日露和親条約締結 [1/2/23]安政東海地震 (M8.4) 発生 [1/2/24]安政南海地震 (M8.5) 発生 幕府、日蘭和親条約締結	朝鮮 鮮 王 朝	清	1857 インドでセポイの乱		
	1855	安政2		昇平丸を幕府に献上 磯城内施設を集成館、城内花園跡煉所を開物館と改称				1858 イギリスがムガル帝国を滅ぼし、インドを併合		
	1857	安政4		斉彬、天保山に砲術操練を申し帰途発病、急逝 僧月照と西郷隆盛、錦江湾に入水する島津忠義藩主となる	幕府、日米修好通商条約締結 安政の大獄(～1859)			1861 アメリカで南北戦争(～65)		
	1858	安政5		西郷隆盛大島に流される						
	1859	安政6		桜田門外の変に有村治左衛門参加 島津久光の兵隊十余人を率いて上京し、公武合体運動を進め、勤旨を補佐し江戸に下り幕政改革を行う						
	1860	万延元		寺田や事件が起こる	桜田門外の変					
	1862	文久2		久光の従士らがイギリス人を殺傷する(生麦事件)	生麦事件					
	1863	文久3		薩英戦争起こる 長州にかり薩摩藩が宮中警備につく(八、一八の政変) 薩摩藩と英国の和議成立	(5月)下関事件 →長州藩がアメリカ/フランス/オランダの船を砲撃する (6月)高杉晋作、奇兵隊を創設する (7月)薩英戦争 (8月)八月十八日の政変 第一次長州戦争起こる 四国連合艦隊下関砲撃事件起こる 第二次長州戦争起こる					
	1864	元治元		禁門の変 第一次長州戦争の出動を幕府より命じられる 第二次長州戦争の出動の幕命あり薩摩藩は再征不可を主張 薩長同盟結ぶ バリ万国博覧会へ施設出発						
	1865	慶応元		薩長土三藩士が王政復古を協議する 薩長に倒幕の密勅下る						
明治時代	1866	慶応2		戊辰戦争に参加 藩内の寺院を全焼 薩長に倒幕の密勅下る						
	1867	慶応3		薩長土三藩士が王政復古を協議する 薩長に倒幕の密勅下る				1867 アメリカがロシアからアラスカを買収		
	1868	明治元		戊辰戦争に従軍。鹿屋半島長、前田佐左衛門、成底戦争に従軍。鹿屋半島長、前田佐左衛門、大始良半島長 川上清右衛門他各郷からも従軍	徳川慶喜、朝廷に大政奉還を請う 王政復古の太号令が出される					
	1869	明治2		高崎豊磨、百引最後の地頭(郷北町)(項目095)	戊辰戦争起こる 版籍奉還					
	1871	明治4		鹿屋、郷北、串良等を郡県制に編入県区の改修	版籍奉還					
	1873	明治6		各郷に正副戸長を置く	戊辰戦争起こる 版籍奉還					
	1874	明治7		郡城隍廃止される。	版籍奉還					
	1875	明治8		鹿屋・高隈、大始良郵便事務開始	版籍奉還					
	1876	明治9			版籍奉還					
	1877	明治10		西南戦争に従軍(鹿屋194人・大始良60人・高隈16人、百引47人、市成87人等。)西南戦争処分で、2,700人処刑(項目047)	版籍奉還					
	1880	明治13		藤生寺前身説教所開設	版籍奉還					
	1881	明治14		上百引に本願寺説教所開設	版籍奉還					
	1884	明治16		本町大火(45戸焼失)	版籍奉還					
	1889	明治22		鹿屋裁判所落成(大手町)	版籍奉還					
	1890	明治23		明治天皇御乗馬「薩戸号」	版籍奉還					
	1894	明治27		百引村 龜田村長上京拝受	版籍奉還					
	1895	明治28		御下賜馬「薩戸号」の碑建つ(郷北町百引)	版籍奉還					
	1901	明治34		西原競馬場始まる	版籍奉還					
	1904	明治37		鹿屋婦人会始まる(項目004)	版籍奉還					
	1905	明治38		従軍者多岐 川東耕地整理完成 嶺北教育会(百引・市成・恒吉・野方・高隈・牛根の6ヶ村)発足	版籍奉還					

近代国家の形成過程

時代	西暦	年号	郷土の主な事項	鹿児島県内の主な事項	日本の主な事項	朝鮮	中国	世界の主な事項
大正時代	1910明治43	1912大正元	北田水道完成。岡栗・西保・南等耕地整理完成	谷山～武之橋間に電車が開通	韓国併合	1910		1911 辛亥革命で清が滅びる 1912 中華民国成立
	1914大正3		桜島大噴火で、市内各地で、火山灰の被害甚大 (項目015)	桜島大噴火、桜島と大隅半島がつながる	第一次世界大戦始まる			1914 第一次世界大戦 (～18)
	1915大正4		大隅鉄道高須～鹿屋間が開通する		米騒動おこる			1917 ロシア革命
	1916大正5		名馬「とどろき号」の記念競走つる	山形屋百貨店が県下初、鉄筋コンクリート完成	三・一五歳事件			1919 バリ講和会議
	1918大正7		降灰復旧事業市内各地で継続	大島郡住用村で米騒動	五・四運動			1920 国際連盟の成立
昭和時代	1918大正7		安養寺託居所始まる(向江町)		ベルサイユ条約調印			1921 ワシントン会議(～22)
	1919大正8		大円寺本堂新築工事(埴北町)		普通選挙法・治安維持法			1922 ソ連邦成立
	1925大正14		笠之原水道使用始まる	鹿児島本線全通	世界恐慌	日本統治時代	中 華 民 国	1924 アメリカ連邦議会が排日移民法成立
	1927昭和2		高須港護岸工事	鹿児島本線全通	満洲事変			1928 蒋介石が国民党政府樹立
	1928昭和3		龍岡受信始まる	鹿児島市電運行	五・一五事件			1929 世界恐慌が始まる
	1929昭和4		競馬場札元に移転 (項目067)	南薩鉄道全通	日中戦争始まる			1930 アメリカが保護貿易政策に転換
	1931昭和6		百引上水道完成	日豊本線全通(都城～集人、開通)	第二次世界大戦始まる(項目049, 項目050)			1932 イギリスがブロック経済圏を形成
	1932昭和7		祇川に共同製茶工場始まる	西郷隆盛像建つ	日中戦争始まる			1933 ドイツでナチス政権樹立
	1936昭和11		陸軍戦闘機献納式(笠野原町)	大政翼賛会鹿児島県支部発足	第二次世界大戦始まる(項目049, 項目050)			1936 西安事件
	1937昭和12		陸軍航空隊開設、笠野原飛行場買上げ	知覧陸軍飛行場完成	真珠湾攻撃、太平洋戦争始まる(項目049, 項目050)			1939 第二次世界大戦(項目049, 項目050)
	1939昭和14		国鉄志布志線、串良まで開通	翌年にかけて県下各地で空襲をうける	原爆投下される。ポツダム宣言受諾(敗戦)	1945		1943 カイロ会談
	1941昭和16		串良原耕地整理完成	特攻出撃ふえる 鹿児島大空襲		米ソ占		1945 ヤルタ会談
	1942昭和17		鹿屋市市制実施される					
	1942昭和17		県立農民道場串良町に設置					
	1944昭和19		市立図書館開設					
	1945昭和20		串良海軍航空隊発足					
	1945昭和20		鹿屋航空隊解散					
			連合軍鹿屋飛行場着、米海兵隊 鹿屋市高須町金浜へ上陸(項目050)					
			三笠宮殿下 吾平山上陵へ終戦報告(項目054)		人間宣言・極東国際軍事裁判・日本国憲法公布 日本国憲法施行	1948	1949	第二次世界大戦終結 1946 極東国際軍事裁判 1949 北大西洋条約機構締結
	1946昭和21					大朝鮮民主主義人民共和国	中 華 人 民 共 和 国	
	1947昭和22							
	1948昭和23							
	1949昭和24							
	1950昭和25							
	1951昭和26							
	1952昭和27							
	1953昭和28							
	1954昭和29							
	1955昭和30							
	1956昭和31							
	1957昭和32							
	1958昭和33							
	1959昭和34							
	1960昭和35							
	1961昭和36							
	1962昭和37							
	1963昭和38							
	1964昭和39							
	1965昭和40							
	1966昭和41							
	1967昭和42							
	1968昭和43							
	1969昭和44							
	1970昭和45							
	1971昭和46							
	1972昭和47							
	1973昭和48							
	1974昭和49							
	1975昭和50							

時代	西暦	年号	郷土の主な事項	鹿児島県内の主な事項	日本の主な事項	朝鮮	中国	世界の主な事項
昭和時代	1976 昭和51	1976 昭和51	集中豪雨により大きな被害でる	鹿屋大陣線廃止 (項目022)	ロッキード事件 成田空港開港 (新東京国際空港) 東京サミット ローマ法王来日	大朝鮮民主主義人民共和国	中華人民共和国	1980 イラン・イラク戦争始まる 米国 レーガン/ミクス1981～
	1977 昭和52	1977 昭和52	鹿屋市文化会館完成 (項目005)					
	1978 昭和53	1978 昭和53	鹿屋市立図書館完成 (項目005)					
	1979 昭和54	1979 昭和54	国立鹿屋体育大学開校 (項目007)					
平成時代	1980 昭和55	1980 昭和55	国立大隅青少年自然の家完成 (項目009)	学校第2土曜日が休業となり週5日スタート 鹿屋島読売テレビ開局。県内民放4局に 全国高校サッカー選手権鹿児島実業高校県勢初の優勝	バブルの始まり 青函トンネル開通、瀬戸大橋開通 昭和天皇が崩御。「平成」が始まる バブル崩壊、TBS記者秋山豊實氏日本人初宇宙飛行			1989 六四天安門事件 (通称 天安門事件) ベルリンの壁崩壊 マルタ会談 1990 湾岸戦争開戦、統一ドイツ誕生 1991 ソ連崩壊 1993 欧州連合 (EU) 発足
	1981 昭和56	1981 昭和56	「アジア・太平洋農村研修センター」オープン (項目009、項目088)					
	1982 昭和57	1982 昭和57	鹿屋市役所が国鉄鹿屋駅跡に移転					
	1983 昭和58	1983 昭和58	国道220号 鹿屋バイパスが全線開通					
	1984 昭和59	1984 昭和59	鹿屋航空基地資料館オープン (項目008)					
	1985 昭和60	1985 昭和60	「アジア・太平洋農村研修センター」オープン (項目009、項目088)					
	1986 昭和61	1986 昭和61	鹿屋市立図書館完成 (項目005)					
	1987 昭和62	1987 昭和62	国立大隅青少年自然の家完成 (項目009)					
	1988 昭和63	1988 昭和63	台風20号が襲来。各地に被害 (始良川警戒水位を超える。吉田橋通行不能)					
	1989 平成1	1989 平成1	鹿屋市役所が国鉄鹿屋駅跡に移転					
	1990 平成2	1990 平成2	国道220号 鹿屋バイパスが全線開通					
	1991 平成3	1991 平成3	鹿屋航空基地資料館オープン (項目008)					
	1992 平成4	1992 平成4	「アジア・太平洋農村研修センター」オープン (項目009、項目088)					
	1993 平成5	1993 平成5	鹿屋市立図書館完成 (項目005)					
	1994 平成6	1994 平成6	国立大隅青少年自然の家完成 (項目009)					
	1995 平成7	1995 平成7	鹿屋市役所が国鉄鹿屋駅跡に移転					
令和時代	1996 平成8	1996 平成8	鹿屋市立図書館完成 (項目005)	アベノミクス 平成大合併 (平成11年～平成22年) NHK大河ドラマ「篤姫」放送開始	サッカーW杯日韓大会開催 日本郵政公社が民営化し、日本郵政グループになる 地上デジタル放送開始 東日本大震災			2001 アメリカ同時多発テロ 2003 イラク戦争開戦 2008 米証券リーマン・ブラザーズ経営破綻 世界的な不況となる リーマンショック
	1997 平成9	1997 平成9	鹿屋市役所が国鉄鹿屋駅跡に移転					
	1998 平成10	1998 平成10	国道220号 鹿屋バイパスが全線開通					
	1999 平成11	1999 平成11	鹿屋航空基地資料館オープン (項目008)					
	2000 平成12	2000 平成12	「アジア・太平洋農村研修センター」オープン (項目009、項目088)					
	2001 平成13	2001 平成13	鹿屋市立図書館完成 (項目005)					
	2002 平成14	2002 平成14	国立大隅青少年自然の家完成 (項目009)					
	2003 平成15	2003 平成15	鹿屋市役所が国鉄鹿屋駅跡に移転					
	2004 平成16	2004 平成16	国道220号 鹿屋バイパスが全線開通					
	2005 平成17	2005 平成17	鹿屋航空基地資料館オープン (項目008)					
	2006 平成18	2006 平成18	「アジア・太平洋農村研修センター」オープン (項目009、項目088)					
	2007 平成19	2007 平成19	鹿屋市立図書館完成 (項目005)					
	2008 平成20	2008 平成20	国立大隅青少年自然の家完成 (項目009)					
	2009 平成21	2009 平成21	鹿屋市役所が国鉄鹿屋駅跡に移転					
	2010 平成22	2010 平成22	国道220号 鹿屋バイパスが全線開通					
	2011 平成23	2011 平成23	鹿屋航空基地資料館オープン (項目008)					
	2012 平成24	2012 平成24	「アジア・太平洋農村研修センター」オープン (項目009、項目088)					
	2013 平成25	2013 平成25	鹿屋市立図書館完成 (項目005)					
	2014 平成26	2014 平成26	国立大隅青少年自然の家完成 (項目009)					
	2015 平成27	2015 平成27	鹿屋市役所が国鉄鹿屋駅跡に移転					
	2016 平成28	2016 平成28	国道220号 鹿屋バイパスが全線開通					
	2017 平成29	2017 平成29	鹿屋航空基地資料館オープン (項目008)					
	2018 平成30	2018 平成30	「アジア・太平洋農村研修センター」オープン (項目009、項目088)					
	2019 令和1	2019 令和1	鹿屋市立図書館完成 (項目005)	新型コロナウイルス流行	新元号「令和」に改元 東京オリンピック開催			
	2020 令和2	2020 令和2	国立大隅青少年自然の家完成 (項目009)					
	2021 令和3	2021 令和3	鹿屋市役所が国鉄鹿屋駅跡に移転					
	2022 令和4	2022 令和4	国道220号 鹿屋バイパスが全線開通					
	2023 令和5	2023 令和5	鹿屋航空基地資料館オープン (項目008)					

鹿 屋 市 の 成 り 立 ち

古代から江戸時代まで

7世紀中期	日向国	律令制が成立し、この頃以後宮崎と鹿児島島の九州本土で日向国が設けられる。	
702年 大宝2年	日向国	日向国から喺更国（後の薩摩国）分立。	
713年 和銅6年	大隅国	日向国から肝杯郡、喺岐郡、大隅郡、始羅郡の4郡を分け大隅国分立。現在の鹿屋市にあたるのは大隅郡、始羅郡であったと思われる。	
930年代 承平年間	郡と郷	平安中期の和名類聚抄より。大隅国成立からこの頃までに大隅郡、始羅郡の領域の変更があったと思われる。 大隅郡7郷、人野、大隅、請列、始羅(吉平)、禰寝、大阿(大始良)、岐刀、始羅郡4郷、鹿屋(鹿屋市街地)、串伎(串良・東串良)、野裏、岐刀。	
平安末頃～	荘園制	荘園の発達により地域の呼び名が院や荘、郡、郷など様々に変わっていく。現在の鹿屋市にあたる地は鹿屋院、串良院、始良荘、始良西院、小河院（南側が輝北）、 鹿屋院北院（北側が大始良（嶺く西院）などと呼ばれた。	
江戸時代	外城制	薩摩藩により藩内は110余りの外城（郷）に分かれ、各地には地頭屋敷を中心に武家屋敷がある藩集落が広がっていた。外城は直轄領と私領に分かれる。	※○ 内はいずれも推測 または候補地。
	直轄領	牛根郷	始良郷
	直轄領	垂水島津家新成島津家	高隈郷
	直轄領	鹿屋郷	高隈郷
	直轄領	新成郷	大始良郷
	直轄領	花岡郷	花岡郷
	直轄領	鹿屋郷	鹿屋郷
	直轄領	下名村 (のち田崎村)	下名村
	直轄領	中名村	中名村
	直轄領	上名村	上名村
	直轄領	高須村	高須村
	直轄領	新成村	新成村
	直轄領	垂水郷	垂水郷
	直轄領	牛根郷	牛根郷
	直轄領	郷内の村 ※現鹿屋市隣接のみ記す	郷内の村
	直轄領	町制実施 串良郷は西と東に分かれる	町制実施
	直轄領	鹿屋、町制施行	鹿屋、町制施行
	直轄領	垂水、町制施行	垂水、町制施行
	直轄領	串良、町制施行	串良、町制施行
	直轄領	東串良、町制施行	東串良、町制施行
	直轄領	鹿屋・花岡・大始良 合併・市制施行	鹿屋・花岡・大始良 合併・市制施行
	直轄領	太平洋戦争始まる ～昭和20年	太平洋戦争始まる ～昭和20年
	直轄領	始良、改称・町制施行	始良、改称・町制施行
	直轄領	垂水・牛根・新城、合併	垂水・牛根・新城、合併
	直轄領	高隈、鹿屋へ編入	高隈、鹿屋へ編入
	直轄領	百引・市成、合併	百引・市成、合併
	直轄領	旧新城村の一部、 鹿屋へ編入	旧新城村の一部、 鹿屋へ編入
	直轄領	垂水、市制施行	垂水、市制施行
	直轄領	鹿屋・吾平・輝北・串良 合併	鹿屋・吾平・輝北・串良 合併

江戸時代末から現在まで

江戸時代	郷	牛根郷	垂水郷	新成郷	鹿屋郷	花岡郷	大始良郷	高隈郷	始良郷	百引郷	市成郷	串良郷
明治の初め	郷内の村 ※現鹿屋市隣接のみ記す			新成村	下名村 (のち田崎村)	木谷村 白水村 横田村 大始良村	野里村 西園寺村 獅子目村 横田村 大始良村	上高隈村 下高隈村	上名村 麓下名村	百引村 (のち上高隈と 下高隈に分村)	市成村	串良郷
1889年 明治22年	町制実施 串良郷は西と東に分かれる	牛根村	垂水村	新成村	鹿屋村	花岡村	大始良村	高隈村	始良村	百引村	市成村	東串良村
1912年 大正元年	鹿屋、町制施行				鹿屋町							東串良村
1924年 大正13年	垂水、町制施行		垂水町									東串良村
1932年 昭和7年	串良、町制施行											東串良村
1932年 昭和7年	東串良、町制施行											東串良村
1941年 昭和16年	鹿屋・花岡・大始良 合併・市制施行											東串良村
1941年 昭和16年	太平洋戦争始まる ～昭和20年											東串良村
1947年 昭和22年	始良、改称・町制施行											東串良村
1955年 昭和30年	垂水・牛根・新城、合併		垂水町									東串良村
1955年 昭和30年	高隈、鹿屋へ編入											東串良村
1956年 昭和31年	百引・市成、合併											東串良村
1958年 昭和33年	旧新城村の一部、 鹿屋へ編入											東串良村
1958年 昭和33年	垂水、市制施行											東串良村
2006年 平成18年	鹿屋・吾平・輝北・串良 合併											東串良村

かのや 歴史探訪



市成を数根氏が治めていたころ、長慶寺の法蔵山院境内の山に祀られた像で、今から約800年前の室町時代の作と伝えられる。彫刻、石臼状を治せ仁王像として親しまれている。



県指定「笠野原土持堀の深井戸」
笠野原台地はシルス土壌のため飲み水や農業用水に困っていた。そこで人々は井戸を掘って生活用水に役立てた。この深井戸は64mと深く、牛にロープを引かせ、つるべで水をくんでいた。



イチョウは樹高9m、高さ19.8m、寄り添うように立つミミの木とイヌマキは、ミミが周囲4.75m、高さ32.8m、イヌマキは周囲3.75m、高さ22.2m、いづれも樹齢3400年以上と推定される。



生首がふり、右手に珠釈、左手に宝珠を持った菩薩像で、徳留の形の石像の上にある。



鎌倉時代に建てられた時代に建てた村田氏と奥氏による地域の開墾作業や戦乱の時の供養塔で、真穴の中世の墓と石塔が並んでいる。



鎌倉時代に建てられた時代に建てた村田氏と奥氏による地域の開墾作業や戦乱の時の供養塔で、真穴の中世の墓と石塔が並んでいる。



高須町の刀舞

近之上神社境内で祭典を行い、刀、長刀、弓、鬼、神の神の5つの舞を同時に踊り、刀が刀舞と共に町内を巡行する。もともとは入道神社の祭典で行われた神楽舞である。

明治37年5月に完成したのびね橋(複式アーチ橋)。全長30m、巾3.1m、高さ約5mで、大黒地が数少ないのびね橋として貴重である。



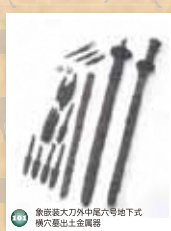
大黒橋



1751年(寛延4年)の作で稲持田の神像では最も古いものとされる。コシキを刻印にみえり、右の長い上衣を巻いている。右手にシャモジ、左手に無用の鉈を持っている。



七郎兵衛神社の境内で大きく枝葉を広げる樹齢約800年の大木である。樹高約10.8m、高さ約25mとなり、樹冠が広い。生命力を感じさせる。



約1500年前のもの。ツバとハバキは葉文(ハート形)・柳葉部分に二重半文の図案が施されている。それぞれ3体の人物、多数の装飾品が出土した。



千葉県栗見川地区で発掘された2000年以上(室生時代)のハスの実から発掘された。樹高をさげる。樹高をさげる。樹高をさげる。



蓮台の上にひびきをて顔つえをついた均整の取れた美しい観音像。台座に享保九年(1724年)の銘が刻まれている。



田の神像は山水が付いた田の神で、高さ93.5cm、山の高さは52cm、湖の高さは20cmをひき、神の長い上衣と袴をつけている。左手はシャモジ、右手はスリコキをもつ。湖上と湖元、山元の間に建蓮仏像に小仏らしいものが形がられている。

村田氏六代領主藤原の神像とされる説があり、預される塔で、正面と右側面に薬師如来像、左側面には高橋子安の人物が彫られている珍しいものである。



鹿島史民俗資料室

鹿島史民俗資料室

鹿島史民俗資料室

鹿島史民俗資料室

鹿島史民俗資料室

鹿島史民俗資料室

鹿島史民俗資料室

鹿島史民俗資料室

鹿島史民俗資料室

鹿島史民俗資料室

鹿島史民俗資料室

鹿島史民俗資料室

鹿島史民俗資料室

鹿島史民俗資料室

鹿島史民俗資料室

鹿島史民俗資料室

鹿島史民俗資料室

鹿島史民俗資料室

- 1 短甲・重荷付背
- 2 野里の田の神
- 3 山宮神社の尊厳に伴う芸
- 4 笠野原土持堀の家井戸
- 5 古橋
- 6 板橋
- 7 中世神社本殿
- 8 大黒橋
- 9 花野神社境内山寺境内の小型石塔群
- 10 金取寺石塔群
- 11 仁王像
- 12 観音の大地蔵
- 13 一石五輪塔
- 14 庚申塔
- 15 丸山町の石塔群
- 16 福徳社の三尊石仏
- 17 下町の大地蔵
- 18 笠野の大地蔵
- 19 下平瀬の田の神
- 20 中瀬の田の神
- 21 宮前の田の神
- 22 取丸の田の神
- 23 八幡神社境内の田の神
- 24 地蔵の観音
- 25 荒平の大地蔵
- 26 長谷寺・長谷神社・中世石塔群
- 27 春日神社境内の観音大黒山寺砂隠塔
- 28 馬場の川内神社の観音・地蔵
- 29 水堀跡および薬師堂遺構
- 30 上野神社の境内
- 31 鹿島の田の神
- 32 大穴ハスの神
- 33 大穴ハスの神
- 34 大穴ハスの神
- 35 大穴ハスの神
- 36 大穴ハスの神
- 37 大穴ハスの神
- 38 大穴ハスの神
- 39 大穴ハスの神
- 40 大穴ハスの神
- 41 大穴ハスの神
- 42 大穴ハスの神
- 43 大穴ハスの神
- 44 大穴ハスの神
- 45 大穴ハスの神
- 46 大穴ハスの神
- 47 大穴ハスの神
- 48 大穴ハスの神
- 49 大穴ハスの神
- 50 大穴ハスの神
- 51 大穴ハスの神
- 52 大穴ハスの神
- 53 大穴ハスの神
- 54 大穴ハスの神
- 55 大穴ハスの神
- 56 大穴ハスの神
- 57 大穴ハスの神
- 58 大穴ハスの神
- 59 大穴ハスの神
- 60 大穴ハスの神
- 61 大穴ハスの神
- 62 大穴ハスの神
- 63 大穴ハスの神
- 64 大穴ハスの神
- 65 大穴ハスの神
- 66 大穴ハスの神
- 67 大穴ハスの神
- 68 大穴ハスの神
- 69 大穴ハスの神
- 70 大穴ハスの神
- 71 大穴ハスの神
- 72 大穴ハスの神
- 73 大穴ハスの神
- 74 大穴ハスの神
- 75 大穴ハスの神
- 76 大穴ハスの神
- 77 大穴ハスの神
- 78 大穴ハスの神
- 79 大穴ハスの神
- 80 大穴ハスの神
- 81 大穴ハスの神
- 82 大穴ハスの神
- 83 大穴ハスの神
- 84 大穴ハスの神
- 85 大穴ハスの神
- 86 大穴ハスの神
- 87 大穴ハスの神
- 88 大穴ハスの神
- 89 大穴ハスの神
- 90 大穴ハスの神
- 91 大穴ハスの神
- 92 大穴ハスの神
- 93 大穴ハスの神
- 94 大穴ハスの神
- 95 大穴ハスの神
- 96 大穴ハスの神
- 97 大穴ハスの神
- 98 大穴ハスの神
- 99 大穴ハスの神
- 100 大穴ハスの神
- 101 大穴ハスの神
- 102 大穴ハスの神

鹿島文化財一覧
(1～4は県指定、それ以外は市指定)

鹿屋市にある 指定文化財

県指定 4 件、市指定 98 件の合計 102 件の指定文化財のうち 44 件を掲載しています。
(平成 23 年 4 月 1 日現在)

県指定
● 短甲・衝角付冑



古墳時代（5世紀頃）の短甲（よろい）と戦いの時に頭にかけた「かぶた」。昭和25年、西蔵川井上之の地下式横穴から発見された。

県指定
● 山宮神社の春祭りに伴う芸能



春祭りは毎年2月第三日曜日に伴われる山宮神社の神事で正月踊り（椿踊り）・カキ引き・農夫がなつひいな会話で行う田打ちが行われる。集落の人々によってお化粧がなされる。

● 古 銭



昭和36年、田崎町老神の工事中に18,122枚が発見された。約70種類の中国銭で、ほとんどは北宋銭で室町時代に埋められたものと思われる。

● 板 碑



6基の板碑があり、南北朝時代、享和による死者の供養や生きている間に自分の冥福を祈って立てられた。

● 中津神社本殿



高嶺郷の鎮守神社で、本殿は1653年(承応2年)に建てられた。三間社流れ造り、杉などの木を厚くそいで屋根をしいた柿葺き（じけらぶき）である。

● 花岡町花岡山浄福寺の
小笠原阿弥如來佛像



高さ0.9m程の小さな阿彌如來像。花岡島津家六代久誠の妻持子が所持していたもので高さ3.8cm、幅2.1cmの厨子の中に納められている。

● 一石五輪塔



この五輪塔はパーツごとにできている。一石の短石を削ってできている。鎌倉時代の逆修供養塔で鎌倉時代前期に建てられた。

● 庚申地蔵



1690年（元禄3年）庚申講衆中が造立したもので、像そのものは延命地蔵菩薩である。

● 下方の六地藏



全高2m。この六地藏は「イボ」の神として、塔身に大豆を供える風習があった。そのための穴がいくつもの穴が数多く見える。

● 下平房の田の神



右手にシャモシ、左手にスリコギを持ったユーモラスな表情の田の神で、田植え前には豊作を祈って集落の人々によってお化粧がなされる。

● 宮園の田の神



頭にコシギをかぶり、左手にスリコギを肩につく格好で持ち、クビをかしげるこっこい田の神像。

● 歌丸の田の神



1847年(弘化4年)造立。製作者は「佐吉」とある。左手にスリコギをたてに持つ丸顔の田の神である。

● 八幡神社境内の田の神



獅の柄に両手をのびた鍬持ちの神で、ほぼ完形で残っている。大きなキを背後に長く垂らしてかぶっている。

● 荒平の六地藏



1539年（天文8年）造立。戦国時代、田代一族の死者の冥福を祈って建てた追善供養塔で、市内の六地藏の中でも古い時代のものである。



長谷観音 長谷城跡 中世石塔群



春日神社境内の観音像 大東妙典読碑



鳥ヶ山の月待供養塔・観音



大牟田の田の神



生葉須の六地藏



柚木原墓地の平面六地藏塔



中郷の田の神像



下名真角の田の神など

観音像には梵字が刻まれ彩色がされ、長谷信仰の南限に近い観音と言われる。石塔群は長谷一族の逆修供養塔群で、長谷氏の相繼文様が見られる。

観音像は如意輪観音で江戸時代中期の作である。法華経を読んだ大乗妙典読碑は1717年(享保2年)に造立された。

月輪を背にした如意輪観音の月待供養塔は奥下で数少ない。右足は立ておき、右手で頬をささえ、左手にハスをもつ。1733年(享保18年)造立。

右足を少し上げて歩く姿を表現した山伏僧の田の神像である。頭にはコシギをかぶり、右手にはスリコギ、左手にはシャモシを持っている。

塔身に延宝5年(1677年)と刻まれており像形のしっかりしたものでは串良地区で最も古い六地藏塔である。

一枚石の平面に六地藏が並んで彫られている。六地藏といえは六面体の塔が一般的に知られており、大変めずらしい。

袖長の長衣にコシギをかぶり、右手にスリコギ、左手にシャモシを持ち、右膝を少し立てている。スリコシとした田の神像は南向きに立っている。

右手にスリコギ、左手にシャモシを持ち、頭にコシギをかぶった旅僧型の田の神像で、吾平地区内で最も古い。



● 六地藏塔



● 小島神社の庚申塔



● 下名真角の古石塔



● 釣引祭り



● 朝倉太鼓踊り



● 鶴亀城本丸跡



● 地頭館仮屋跡



● 正安の五輪塔

高嶺の柚木原墓地にある。鹿屋市内にある六地藏塔のうちで最も古い1535年（天文4年）に造られたものである。

江戸時代前期の1674年(延宝2年)に造立された塔で、庚申講衆を本尊とする庚申塔では市内で最も古いとされる。

馬頭観音と左手に弓、右手に矢を1本持ち、背中に矢を2本背負った勇壮活潑な庚申塔が立てられている。

中津神社に伝わる神事。農林業の発展を祈念し、上高嶺・下高嶺が雄略・雌略の神木を引き合い路祭をする。勝では1年間豊作になるといわれる。

江戸末期、加世田の職人から伝えられたものといわれ、「川踊り」とも呼ばれた。鉦打ちと太鼓打ちに合わせて隊形を整えながら踊る。

応永末期から戦国期にかけて築城された城で串良城ともいう。城跡は串良公民館の隣にわずかに現存している。

天正年代、島津氏の外城として地頭館仮屋があられていた。現在、東側に石塔の一部と仮屋門が残されている。

全高1.9mで大隅半島でも大きな五輪塔である。もとは西宮路にあったと伝わる鶴入寺阿彌陀堂の脇にあった。



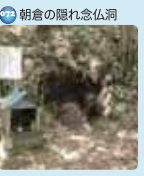
● 上名赤野の石塔群



● 花岡島津氏歴代墓



● 加瀬田ヶ城跡



● 朝倉の隠れ念仏洞



● 金剛経一万巻読誦所碑



● 立小野の古石塔群



● 玉泉寺跡の住職の供養墓など



● 下名鳥淵観音

五輪塔1基、宝塔1基、板碑2基、奉斎進の文字が刻まれた石塔1基、五輪塔残欠。この石塔群は同一族のものであるという。

墓地は、花岡島津初代久備から9代久基に至るまでの歴代のもの。男女により形が違ふなどの特徴がある。

肝付氏の武将が築城したといわれる。北側はシラスの絶壁、東南側は急斜面で、両側には堀が造られ、守り堅い城であった。

薩摩藩の一向宗禁制による弾圧を免れるために造られた念仏洞で、暗夜や嵐の日などに、ごそり集まり、本尊を拝み、読経した跡である。

戦国時代に金剛経を一万巻読誦した記念に建てられた石塔で大隅半島でも非常に珍しいものである。

鎌倉末期から室町前期にわたる肝付氏系統の宝塔21、五輪塔20基が復元されている。

1395年(応永2年)に源義和尚によって建てられた由緒ある寺であったが、慶長6年に焼失。寺跡には源義和尚などの供養塔が並び、

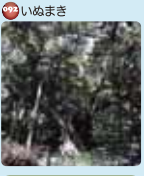
天然の岩屋の中に安置されている観音がおどやかな表情の観音像である。



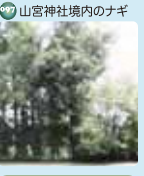
● 上小原4号古墳



● 岡崎15号古墳



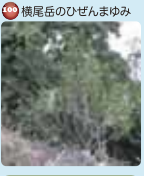
● いぬまき



● 山宮神社境内のナギ



● 十五社神社境内の観音



● 横尾岳のひぜんまゆみ

大隅半島内陸部にある前方後円墳では、南限であり極めて考古学的価値が高い。写真も、模型もそう。

鹿屋島泉下で最古の長刀板車輪甲・頭甲・肩甲が出土した古墳。この他勾玉、管玉が出土した。

高さ約15m、幹まわり約6.3mのいぬまきの古墳で、中央公園近くの熊野神社境内にあり、風格と威厳を備える。

周囲が2.5m高さ20mを越す巨木で樹齢約300年を越すものであり、地域のシンボルとして親しまれている。

周囲が5.9m高さ20.5mを越す巨木で樹齢約260年を越す。秋にはたくさんのギンナガが実り、地域住民に親しまれている。

ひぜんまゆみはニシキ科の植物で、横尾岳公園には十数本が自生しており、保護林となっている。



こちらから閲覧できます

【参考文献一覧】

- ・鹿屋市史 上巻 下巻
- ・輝北町郷土誌
- ・吾平町誌 上巻 下巻
- ・串良町郷土誌
- ・西串良郷土誌
- ・鹿屋市の文化財
- ・輝北町文化財巡り
- ・吾平町歴史小冊子
- ・串良町文化財要覧
- ・平房川流域の民俗誌
- ・中津神社改築記念誌
- ・かのや歴史探訪
- ・鹿屋地方の民話（鹿屋市教育委員会）
- ・大始良の歴史と文化
- ・鹿屋市戦跡ガイドマップ
- ・鹿屋女子高研究紀要
- ・広報かのや
- ・鹿屋市防災マップ
- ・統計かのや
- ・鹿屋市教育委員会発行「マイブンカノヤ Vol.6」
- ・三国名勝図絵下巻(南日本出版文化協会)
- ・鹿児島島の昔ばなし(南日本新聞社)
- ・鹿児島県の歴史(山川出版)
- ・鹿児島県風土記
- ・江戸時代人づくり風土記④⑥ 鹿児島
- ・鹿児島大百科事典
- ・鹿児島県「シラスと暮らし」「鹿児島県の砂防事業」
- ・島津藩の本城としての鹿児島城
- ・鹿児島県の歴史散歩
- ・わかる古事記(西日本出版社)
- ・大隅国探訪
- ・四国新聞HP
- ・「鹿児島湾の謎を追って」(著)大木公彦
- ・石碑は語る高隈の今昔 1・続編
- ・鹿児島地方気象台HP
- ・植物研究雑誌 68
- ・鹿児島県神社庁HP
- ・かのやふるさとデータブックHP
- ・鹿児島県HP
- ・災害教訓の継承に関する専門調査会報告書 1914 桜島噴火
- ・建設コンサルタンツ協会誌
- ・鹿児島県レッドデータブック
- ・平成 22 年度高隈山森林遺伝資源保存林モニタリング調査業務報告書
- ・九州森林管理局HP
- ・甲南生物 第 15 号
- ・ふるさと探訪記
- ・先史・古代の鹿児島 資料編 平成 17 年 3 月 31 日 鹿児島県教育委員会
- ・先史・古代の鹿児島 通史編 平成 18 年 3 月 31 日 鹿児島県教育委員会
- ・郷土の味 平成 20 年 3 月 鹿児島県食生活改善推進委員連絡協議会
- ・大隅の自然(鹿児島県立博物館)
- ・薬草の詩(鹿児島県薬剤師会)
- ・南九州里の植物
- ・日本の野草(南方新社)
- ・鹿児島県縄文の森考古ガイダンス第 22 回
- ・鹿児島県垂水市 「柊原貝塚」
- ・鹿児島県上野原縄文の森考古学ガイダンス
- ・公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター
発掘調査報告書 35 細山田段遺跡 2021
- ・公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター
発掘調査報告書 26 小牧遺跡 2019
- ・鈴木達郎・山元温彦・大木公彦・小林哲夫・根建心具 1985『鹿児島県火砕流
分布図 1:200,000』鹿児島大学特定研究「南九州における火砕流堆積物の
時空分布に関する研究」鹿児島地図センターを鹿児島市が改編したもの

順不同

「かのや風土記～鹿屋学入門～」 編纂組織

編纂委員

徳留 浩二（行政福祉コンサルタント）
西 みやび（鹿屋体育大学広報特任専門員）
中村 成美（市校長協会代表）
川筋 順也（フォトスタジオカワスジ代表取締役）
伊藤 ふさ（おおすみFMネットワーク事務局長）

企画部会員

教育次長（部長） 稲村 憲幸
政策推進課長 鈿持 朋彦（令和3年度） 隈元 成人（令和4年度）
産業振興課長 黒木 裕
教育総務課長 川越 太
学校教育課長 安藤 晋哉（令和3年度） 新屋 公彦（令和4年度）
生涯学習課長 鬼塚 仁（令和3年度） 山口 良二（令和4年度）
文化財センター所長 松元 敏幸
輝北総合支所住民サービス課長
中津川 守（令和3年度） 岩元 研作（令和4年度）
串良総合支所住民サービス課長
末吉 俊一
吾平総合支所住民サービス課長
前原 浩幸（令和3年度） 蔵ヶ崎 直（令和4年度）

作業部会アドバイザー

徳留 浩二（行政福祉コンサルタント）
伊藤 ふさ（おおすみFMネットワーク事務局長）
堂込 秀人（鹿児島県考古学会会長）
海老原 寛業（鹿屋市文化財保護審議会委員）

作業部会員（教職員及び担当市役所職員）

田中 梢（鹿屋小学校）	寺田 敏哉（菰川小学校）
下水流 達司（東原小学校）	宮路 大輝（笠野原小学校）
落合 潤（寿小学校）	山下 純弥（輝北小学校）
東上床 綾（串良小学校）	田平 俊彦（細山田小学校）
豊島 紀一（吾平小学校）	塩満 康一郎（下名小学校）
山川 正樹（鹿屋中学校）	片野田 裕亮（鹿屋東中学校）
中之内 友里（第一鹿屋中学校）	久保田 博之（第一鹿屋中学校）
末弘 慈子（田崎中学校）	中浦 有紀（大始良中学校）
竈原 領介（高隈中学校）	川嶋 富士夫（輝北中学校）

岩戸 真紀 (細山田中学校) 長谷川 幸一 (上小原中学校)
 柳原 真美 (吾平中学校) 横峯 達也 (鹿屋女子高校)
 ※令和3年度の在籍校

政策推進課 池之上 拓也 産業振興課 瀬貫 拓也、鮫島 崇寛
 教育総務課 曾原 学 学校教育課 山内 誠
 生涯学習課 稲村 博文、前山 徳仁 文化財センター 福岡 貴之、郷原 麻鈴
 輝北総合支所住民サービス課 田中 祥平
 串良総合支所住民サービス課 東倉 晃
 吾平総合支所住民サービス課 前迫 篤弘

※令和4年度は、項目内容に応じて各課担当者等が従事

編纂へ指導助言及び写真等の提供をいただいた方々

安藤 一夫 (笠野原開発資料館 館主)
 内山 昇 (㈱エバーオンワード 代表取締役社長)
 江口 智昭 (アウトドアショップキャメル 代表)
 大木 公彦 (鹿児島大学 名誉教授)
 上別府 実 (㈲上別府種畜場 代表取締役)
 高木 千波 (㈲坂元種畜場 代表取締役)
 福里 修誠
 船越 公威 (鹿児島国際大学 教授)
 三森 淳 (㈲三森製茶 代表取締役)
 米重 修一 (拓殖大学 准教授)

※記載は五十音順・敬称略

事務局 (鹿屋市教育委員会生涯学習課)

〈令和2年度〉	〈令和3年度〉	〈令和4年度〉
課長 鬼塚 仁	課長 鬼塚 仁	課長 山口 良二
課長補佐	課長補佐	課長補佐
兼文化振興係長	兼文化振興係長	兼文化振興係長
松元 和成	稲村 博文	稲村 博文
主査 田中 しおり	係長 岩元 秀光	係長 岩元 秀光
	主査 前山 徳仁	主査 前山 徳仁
	主任主事 末次 孝	主任主事 末次 孝
	主任主事 矢野 聡子	主任主事 矢野 聡子
	主事 源川 尚治	主任主事 大迫 真紀
	主事 中村 優花	主事 源川 尚治
	主事 倉田 奈々子	主事 中村 優花

かのや風土記
～鹿屋学入門～

2023（令和5）年3月31日

発行者 鹿屋市教育委員会
〒893-8501
鹿児島県鹿屋市共栄町20番1号

印刷所 東洋印刷有限会社
〒893-0064
鹿児島県鹿屋市西原2丁目38番3号